

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全に安心してご自分らしく仲間と一緒に地域の一員として暮らせるよう笑顔でお手伝いしています。	『主役は入居者ご本人』から始まる理念は事務所前に掲示し、職員の周知はもちろん、家族にも知ってもらいたいと考えている。髪の毛の長さ等、利用者1人ひとりの個性を活かし、自分らしく生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の文化祭に参加し、利用者の作品も展示しています。祭りにはおみこしを見に行ったり、ボランティアの方々に行事の際は来て頂いています。神社、河川美化活動にも参加し、交流を図っている。	3ヶ月に1回、地域の当番としてお宮掃除に参加している。地域文化センターが近い為、イベントがあるときには参加している。また、文化祭のときには利用者と職員が共同制作した作品を展示し、地域の方に知ってもらえるよう努めている。	小中学生の職場体験や交流会などにより子ども達とのふれあいの機会を増やすことで利用者にとっても楽しい時間が増えると思います。今後の働きかけに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭での利用者の出展作品には了承を得て名前を掲載したり、グループホームの活動を知ってもらうよう努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には和気町の介護保険課の方や民生委員、家族、利用者が参加し、行事報告や家族からの要望を伺ったり、話し合いをしながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的開催されている。会議には町役場職員、民生委員、家族に加えて利用者も参加している。事業所より行事報告や予定、事故報告書など報告し、感染症予防など時事の事柄も発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、地域密着サービス連絡協議会には包括センターと和気町のグループホームの方々も参加し、意見交換や協力関係を築くよう努めている。	役場から母体を通じて入居関係や介護保険等に関わる情報や問い合わせがある。2ヶ月に1回、地域包括支援センターの主催により地域密着サービス連絡協議会を行い、お互いの情報交換や勉強の機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の時間をとったり、研修に参加した職員からの報告も受け、拘束についての正しい知識を学び拘束のないケアに取り組んでいる。	現在、家族同意の下、ベット柵を使用している利用者がいる。モニタリングなど随時行っている。身体拘束マニュアルも用意している。外部研修に参加した職員は月1回の職員会議で発表することでフィードバックをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待のないよう注意し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ以外、なかなか成年後見制度を活用する機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項の説明を行い、不明点、疑問点があれば理解して頂けるよう説明し、納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、または電話等で意見、要望を聞き会議等で話し合い、ケアの向上に努めている。家族へ行事の案内を送り、行事参加時にも家族会を開き意見交流を行っている。	食事や入浴など、日々の生活の中で利用者から意見や要望を聞き出している。家族には毎月、生き生き通信を送り、その中に利用者の状況を記載している。面会時や電話などで意見を聞いているが、あまり言わない家族が多い。	家族に対してアンケート調査を実施し、日頃の気持ちやサービスの満足度、意見、要望などの把握をしてはいかがでしょうか。検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を行い、意見を出し合っている。また、代表者に要望があればその都度報告している。	休憩時間を利用して各ユニットで職員が集まり、雑談を交えながら、日々の意見や要望等を話し合っている。月1回の職員会議でも意見交換を行い、できることは反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤者は年2回の健康診断が行われ、就業規則もいつでも見れるようになっており、管理者は職員の状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があれば参加してもらっているし、それについては職員会議で発表してもらっている。それぞれが自己啓発できるよう相談にもなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス連絡協議会に参加し、勉強会、相互訪問の機会を設けたり、専門医師の講演会に参加し職員のケアの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時に、本人からの要望を聞きケアプランを活かし、安心して生活できるよう努めたり、なるべくかわりを多く持ち、早く馴染めるようにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面会時等に家族から要望等を聞き、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より要望を聞いた上で、身体精神状況の確認をし、サービス提供の方法を話し合い提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士との関係を築いている	一日の暮らしを共にする者同士として、職員が利用者の悩みを聞いたり、利用者が職員にねぎらいの言葉をかけてくれたり、肩をもらってくれたり励ましてくれる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、または電話や新聞等で近況を伝え、気軽に面会に来て頂けるよう努め、行事等にも参加していただいて交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所を散歩したり、自宅近くへドライブしたり、友人の面会もあり、電話をかけたたり、葉書を受けとったりと関係が途切れないよう支援している。	隣接するケアハウスから友人が会いに来たり、病院受診の際、知人に会って話をしたりすることがある。ドライブがてら近くの公園や神社、自宅付近に行き、懐かしい話をしている。職員のフォローにより、ハガキを出している利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事がないよう、職員も利用者も輪の中に入って良好な関係を築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了しても医療機関や他施設に面会に行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の訴えに耳を傾け希望に沿うよう努め、困難な場合はスタッフ間で話し合い、医師の指導も仰いでいる。	利用者と1対1で話をする時間を設けたり、日頃の会話や表情から思いをくみ取り、意見を把握している。食事や医療面に関しては主治医と話し合い、利用者の思いや現状に添える形で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人等から情報を聞き、一人ひとりの生活歴表を職員間で共有しサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックや排泄チェック等を行い、個人別に介護記録や食事量等を記入し、スタッフ全員で把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からも要望、意見を聞き、その方に合ったプランをカンファレンスを行った上で作成している。職員会議や日々の引継ぎでモニタリングし、介護計画を見直している。	職員会議にて支援について気付いたことなど話し合い、ケアプランに反映している。定期的にモニタリングを行い、現状にあったプランを作成している。入居前のアセスメントや職員への情報提供をしっかりと行うことで、入居後の生活支援がスムーズになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録に日々の生活状況や実践結果を記載して、職員間で情報を共有しサービスに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、柔軟な対応を心掛け、ニーズに応じた対応を取るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭に参加したり、地域のボランティアの活用をしている。また、図書館も利用し紙芝居や本の朗読をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関への受診をして頂いているが、夜間や急変時の対応や往診、必要時には入院対応もでき、適切な医療が受けられ、協力医療機関との関係も円滑である。	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診が基本である。家族が受診に連れていくときには利用者の状況を細かく伝えている。また、母体である病院が併設されているため、24時間365日連絡や対応が可能であり、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体である病院の看護師に相談や処置を行ってもらっているし、看護師の資格をもつ介護職員も常駐しているので利用者に適切な対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要に応じて面会に行き担当看護師より情報提供してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは今現在実施しておらず、主治医と相談の上家族の意見を聞いている。職員に対する、終末期対応の研修には参加予定である。	看取りに関する指針や同意書は作成しておらず、医療行為が必要な場合には母体である病院への入院で対応している。終末期対応について外部研修を受けており、職員会議の中で報告し、全員で共有していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は母体の医院の院長指示を仰いでいる。消防署に依頼し、応急手当や初期対応のよい訓練を受け、実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、年2回避難訓練を行っている。夜間想定での避難訓練も実施しているが、災害時における訓練等、地域との協力体制も築いて行くよう努める。	年2回、夜間想定も含め避難訓練を実施し、利用者も参加している。消防署職員より、消火器の使い方や救命救急方法など、指導を受けている。地域との連絡体制は出来ているが、避難訓練への参加などは今の所ない。	地域との協力体制を推進していくためにも、事業所の避難訓練への参加の働きかけをお願いします。また、今後、水害や地震対策についても検討して頂くことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をスタッフ間で注意しながら心がけている。	排泄や入浴など本人のプライバシーやプライドを傷つけないように声かけや支援をしている。名前を呼ぶときは「さん」付けを徹底し、丁寧な言葉かけを心がけている。目が見えない利用者にはきちんと説明をし、本人の納得が得られるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	そのように働きかけ、自己表現、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、思いを大切に声かけ等により働きかけて、どのように過ごしたいか自己決定ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、更衣時はスタッフと一緒に洋服を選び着用したり、行事に出席する時は化粧等をしておしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体である病院の栄養士が毎日の献立を作成し、3食とも職員が作り、家族的な食事を提供している。花見の時には弁当を、お好み焼きパーティーやお茶会、おはぎ等と一緒に作り、作る喜び、食べる喜びを知ってもらえるよう支援している。	栄養士が作成した献立に基づき、各ユニットで職員が手作りをしている。ときには利用者の好みの料理を加えたり、家族からのお土産を3時のおやつに出したりしている。ミキサー食や刻み食など本人の嚥下状態に合わせて細かく対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人別に記入し、食事量低下の時は高カロリー食品や点滴で対応している。水分は起床時、毎食前、食後、午前午後のおやつの際に摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔保持するよう努めている。また定期的に義歯洗浄を使用し除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、タイミングや間隔を見ながら声かけし、トイレ誘導等をしている。トイレでの付き添いもし、排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて、利用者の排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。排泄支援を行っていくうちに感覚を取り戻し、自立に近づいた利用者もいる。パット類は本人に合わせた物を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、牛乳の飲用や過度な運動も心がけているし、献立も野菜が多く摂れるメニューになっている。それでも排便がない時は薬剤によりコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回午後に行っている。本人の気持ちや体調により行っている。入浴が困難な場合はシャワー浴や身体清拭などで対応している。清拭だけではなく足浴や手浴もするようにしている。	週3回の入浴を基本としている。拒否がある場合、無理強いせず、時間やタイミングを見ながら声をかけ、気持ちよく入浴できるよう努めている。浴槽の出入りが困難な場合、足浴やシャワー浴、体清拭などで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、日中でも居室で休まれたりその方の希望でソファで休まれる場合もありますが、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を把握し、きちんと服薬できるよう支援しています。また、薬一覧表を各自確認し、間違いのないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いは出来る方にはスタッフと一緒にして頂き、毎日のレク活動では散歩やカラオケ、季節の行事、誕生日会等、楽しみや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や健康状態を見て、ドライブや散歩等に出かけている。花見や紅葉観賞に参加できるように支援を行っている。	天気のいい日には近隣を散歩し、気分転換を兼ねて運動をしている。また、季節に合わせて事業所周辺のコスモスを観に行ったり、ドライブがてら紅葉を観に行ったりしている。家族と一緒に外出する利用者もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の要望もあり、預り金もないので実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望により、その都度家族に連絡をとる支援を行っているが、電話は家族の負担にならない程度にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カベには季節ごとの装飾をしたり、利用者が参加した行事の写真等を貼ったり、利用者の習字も展示し、自由に見て楽しんでいる。利用者が作った日めくりのカレンダーは毎日、利用者がめくのを役割としている。リビングの大きい窓からは四季の風景を楽しむこともできる。	フロアがとても広く、毎日機能訓練として365歩のマーチに合わせて歩行訓練をしている。また、広さを活かし、家族にも運動会など行事参加を呼び掛けている。季節ごとに壁画や置物、つるし飾りなど工夫し、季節感を感じられるよう努めている。	利用者の重度化に対応すると同時に、職員の身体的負担を軽減していくためにも、電動ベッド導入などについて検討してはいかかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではそれぞれの気分に合った方々と隣に座り、談話したり、テレビを観たり、して過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとクローゼットは備え付けになっているが、布団や仏壇など家で使っていた物も持って来ている。自分で用意できる人には入浴に必要な物を得に描いて置いてあり、本人が準備できるようにしている。	家族には利用者の馴染みの物を持ってきてほしいと伝えており、毛布や置物など持って来ている。職員手作りの誕生日お祝いカードが飾っており、利用者が穏やかに過ごせるよう雰囲気作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには歩行や移動の際に妨げになるような物を置かないようにして、安全に自立した生活が送れるように支援している。		